

# 物語のおもしろさを読みとらせるには

～「ニャーゴ」のねことねずみの様子の対比を通して～

尾道市立因北小学校 松岡 葉月

## 1 実践の趣旨

本単元は、学習指導要領における国語科第1学年及び2学年の「C読むこと」の目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。時間的順序にそって、場面の様子を読み取ったり、話の展開のおもしろさを味わったり、登場人物の気持ちについて想像したりする。

教材については、子ねずみを食べたいと機会をねらっているねこと、そのねこをまったく怖がらず、逆に親しみを感じているかのような三匹の子ねずみとの心情の食い違いのおもしろさがある。そこで、実践としては両者の会話を通して場面ごとに読み取ったり、また、ねこが、「ニャーゴ」と三度言うが、その言い方が状況によって変わっていくことも、音読を通してつかませたりすることにした。

単元構成は、まず、児童に読み聞かせを行い、「ふきだし絵本をつくって、友だちに発表すること」を目標にすることを伝えた。次に、全文通読や挿絵の構成を通して再話を行い、話の時間的な順序や展開など話の構成を考えた。その後、場面ごとにねことねずみの関係を読み取り、子ねずみの言動によって変化してくるねこの気持ちを読み取ったりして、想像を広げさせていき、読み取りをもとに作った吹き出し絵本を友達に発表することにつなげていくことにした。

## 2 実践の概要

(1) 単元名 だれがなにをしたかを考えながら読もう 教材「ニャーゴ」 東京書籍2年上)

(2) 単元の目標

- 物語の展開をとらえ、登場人物の様子や行動を読み取り、気持ちを想像することができる。
- 作品のおもしろさを味わい、他の物語にも興味を持って読書に親しむ。

(3) 手だて

指導に当たっては、読み取りに苦手意識を持つ児童が楽しいと感じられるようにしていきたい。そのために、単元の最初に、読み取りをもとにしたふき出し絵本を作ることを予告しておき、意欲を持たせる。そして、挿絵を活用し、場面の区切りや展開、あらすじをとらえさせる。

指導の中で、場面の読み取りについて特に取り組んでいく。場面の読み取りについては、文章や挿絵から、この作品の面白さであるねことねずみの逆転した強弱関係に注目させる。そして場面ごとにねことねずみの強弱関係を表すため、その場面の大小様々なねずみとねこの絵を選び貼る。そのことで視覚的にとらえさせていく。その際、その根拠となる事柄を見つけさせることを通して、その場面ごとのねこの気持ちに迫っていく。

対話の中で第2学年として、児童の自分の考えやその根拠となる言葉や文を友だちに伝える。そして、友だちの考えを共感的に聞きながら想像を広げたり文章の理解を深めたりするために質問したり、意見をまとめたりする姿が見られれば対話の目標を達成したと考えることができる。そのために、グループ対話を行い、ねことねずみの関係を表した挿絵

をもとに、相手に自分の考えやその根拠を話していき、自分自身の考えを固めさせる。自分の考えに自信の持てない児童にも発表の機会を与えていく。全体対話では、ねずみとねこの関係のとらえの違いや変容を考え合い、ねこの気持ちをふき出しに書かせて場面をまとめさせていく。

評価については、学習後のふき出しに、場面の様子や登場人物の行動を根拠に自分の考えを書くことができているれば読みが深まったといえる。また、ふりかえりシートで関心・意欲面について自己評価させていく。

#### (4) 指導計画 (全10時間)

次 (時間)	学 習 活 動	文学 体験	言語 技術	評 価
				評 価 規 準
一 次 (3)	① 本の読み聞かせを聞いて物語の大体を知り、感想を持つ。 学習計画を立て活動の見通しを持つ。	参加		活動目標を知り、意欲を持って学習しようとする。
	② 全文を通読して出来事の順序をとらえ、場面分けをする。 新出漢字の学習をする。	参加		出来事の順序にそって、物語の展開をとらえている。
	③ 時間的順序を確かめながら、物語のあらすじをとらえる。	参加	再話	挿絵ごとに誰が何をしたところなのかを短くまとめ、あらすじをとらえている。
二 次 (5)	④ 1場面での子ねずみたちのようすを読み取る。	同化	絵の 分析	3匹の子ねずみたちがねこの怖さを全く知らなかったことをとらえる。
	⑤ 2場面の様子を想像しながら、ねことねずみたちのようすを読み取る	同化	問答	子ねずみたちとねこの様子を読み取り、その食い違いを理解している。
	⑥ 3場面のねことねずみたちのようすを読み取る。	同化	絵の 分析 問答	子ねずみたちとねこの様子を読み取り、その食い違いを理解している。
	⑦ 4場面のねことねずみたちのようすを読み取る。)	同化	絵の 分析 問答	子ねずみたちとねこの様子を読み取り、その食い違いを理解している。
	⑧ 5場面のねことねずみたちのようすを読み取る。	対象 化	問答	子ねずみたちを食べずに別れたねこの気持ちを考えられている。
三 次 (2)	⑨ ふきだし絵本を完成させる。	同化		想像した気持ちが読み手に伝わるように書いている。
	⑩ ふきだし絵本を発表したり、交換したりして読み合い感想を伝えあう。	対象 化		自分と異なる受け止め方があることを知り、感想を伝えることができる。

(5) 授業の様子

各場面のねことねずみの場面の強弱関係に注目させるために、大小さまざまなねことねずみの中から自分で場面に合う挿絵を貼る活動を取り入れた。自分の考えをはっきりさせたうえで、対話の中で、自分の自分では気づかなかった物語のおもしろさにも気づくことができた。また、全体対話でねことねずみのとらえちがいに視点を当てて考えさせ、意見を交流させることで、その場面ごとのねこの気持ちに迫ることができ、ねことねずみの「食い違い」のおもしろさを読むことができた。

各場面、読み取りの初期段階でワークシートに書かせた内容や根拠数と学習の最後に吹き出しに書かせた内容の根拠の数を比較すると、内容の根拠の数が増える傾向にあり、多くの児童で読みの深まりが一定程度みられた。また、読み取りの場面がすすむにつれて内容の根拠の数が増える傾向にあり、物語の山場に差し掛かることと並行して学習の仕方が定着すると学習意欲が高まり、それが読みの深まりにつながっていると考える。しかし、読みの深まりのあまり見られない児童も一部見られたので、音読の継続とともに学習の仕方を定着させるように繰り返し指導し、全ての児童に読み取りの深まりが見られるようにしていく必要がある。

【2場面の板書より】

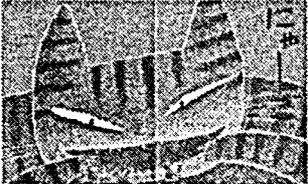
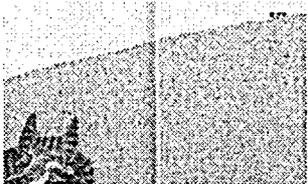
グループ内でも意見が分かれた場合には、根拠が明確であれば、2つの意見を出させた。そのことによって、読み取りが深まるきっかけにした。

ねずみに対してねこがはずかし  
そうだからねずみの方が強いとして  
いる理由を文章を根拠に発表し  
ていた。

ねずみが大きい(ねずみが強い)  
と考えたグループが8グループ。  
グループ対話で理由をきちんと文章を根拠に発表していた。

- ◎一人読み → グループ対話 → 黒板にグループの番号を貼る → グループの根拠を発表する → 全体対話 の流れで授業を行った。
- ◎その後、場面のねこの吹き出しに言葉を入れさせた。

【再話シート】各場面の挿絵を利用して、児童に登場人物の行動や様子を簡単に書かせた。このことは物語の大まかなあらすじをつかませるのに大変有効であった。

		
<p>例…ねこが ねずみを食 べようとし ている。な ど</p>	<p>例…ねこと ねずみが出 会う。など</p>	<p>例…3びきの ねずみが 先生の話を 聞かずに話 をしてい る。</p>
		
<p>例…ねこがね ずみにもも をもらって 帰っている。 など</p>	<p>例…ねこがね ずみにもも をもらって いる。など</p>	<p>例…ねずみが ねこのまね をしている。 など</p>

### 3 成果と課題

#### ○成果

物語の読みとなると、つい「登場人物の心情」を読みとりたくなるものであるが、低学年では「登場人物の様子や行動」を読みとることが目標である。では、今回の「ニャーゴ」の場合はどうすべきか大変悩んだ。そこで、「物語のおもしろさ」を児童に味わわせることが「登場人物の様子や行動を読みとることにつながるとアドバイスを頂き、今回の学習活動を考えるに至った。

まさに児童は1場面からねずみがねこをこわがっていないことを読み取り、すかさず同じ大きさのねずみとねこの絵を選ぶか、もしくはねずみの方が大きい絵を選び、ワークシートに貼っていった。理由は、「ねずみがねこをこわがっていない。」「ねこはねずみを食べようとしない。」「ねこはももをもらってうれしそう。」「ねずみは、ねこに優しくしている。」などが挙げられた。また、ねこが最後にねずみを食べるのをやめたのは、「優しくされて、やめてしまった。」ということも読みとる児童が多かった。今回の「物語のおもしろさ」を児童に味わわせるためにつかった学習活動によって「登場人物の様子や行動」だけでなく、自然と「登場人物の心情」も想像できたのが興味深い点であった。

#### ●課題

グループ対話ではリーダーを中心に意見をまとめたりする姿は見られたが、理解を深めるために相手の考えに対して質問する児童が固定化され、広がりが出なかったことは課題である。全体対話後、ふき出しに登場人物の行動を根拠に自分の考えを書くことはできたが、全体対話によってさらに読みを深める発問が課題である。